



養液栽培における高温性ピシウム病害の「安全性診断マニュアル」を策定

— 早期診断・早期対策で収益力アップ! —

開発の背景・ニーズ

近年、野菜・花き類の養液栽培では、高温性のピシウム菌による病害が発生しています。これらの病原菌は養液を通じて瞬く間に施設全体に広がるため、発見が遅れると防除が困難になります。

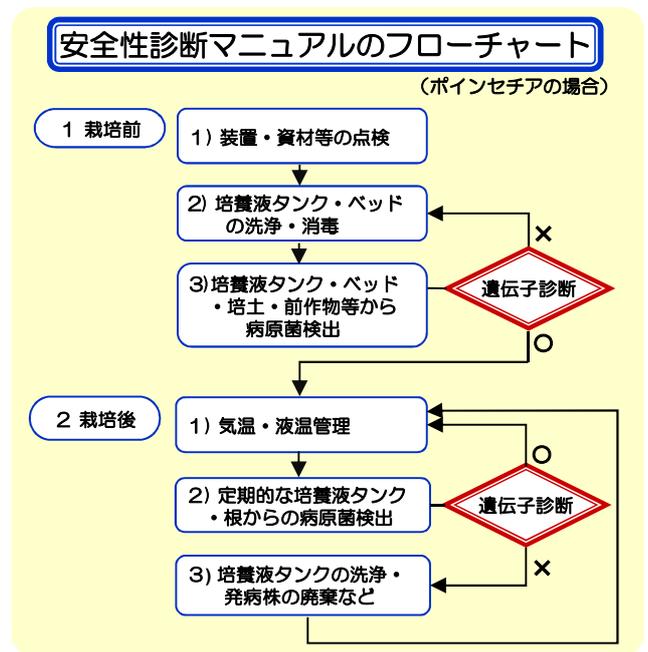
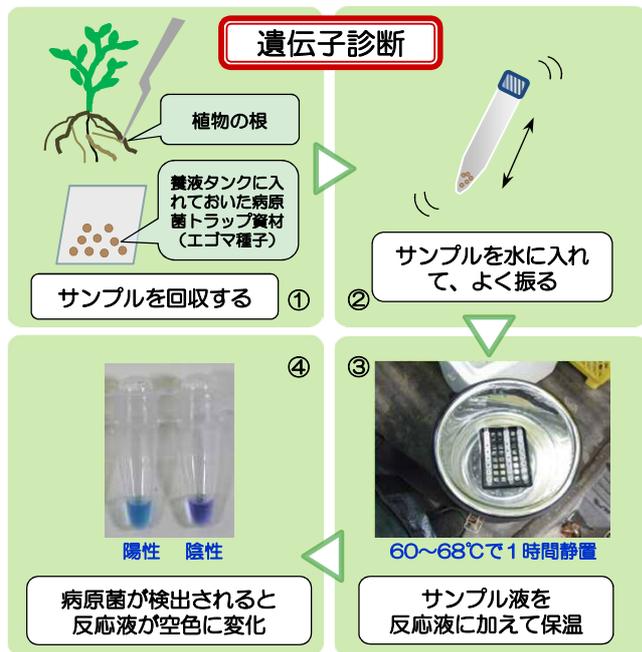
成果の内容

高温性ピシウム病害の被害を軽減するには、早期診断が重要です。そこで、生産現場でも、短時間で正確にピシウム菌を検出する「遺伝子診断手法」を開発しました。この手法を用いて病原菌をモニタリングすることで、安全性の評価や被害の予測をすることができるようになります。

さらに、既存の病害防除技術と培養液の殺菌技術を組み合わせた「安全性診断マニュアル」を策定しました。



県内のポインセチアの養液栽培



マニュアルは、岐阜大学を始め他の研究機関（岐阜県、三重県、静岡県）と連携し、ポインセチア、トマト、ホウレンソウ、ミツバ、ネギ、バラについて策定しました。

愛知県農業への貢献

本マニュアルを利用することで、高温性ピシウム菌による被害を早い段階でくい止めることができます。

【「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」で実施した成果です。】

環境基盤研究部・企画普及部